「軽水炉安全技術・人材ロードマップ」 改訂案の概要

平成29年2月
経済産業省

「軽水炉安全技術・人材ロードマップ」改訂案の概要

1. 評価方法の見直し

○評価者の拡大

- ・廃炉、セキュリティ、建築等の専門家を評価者に追加。（8名→12名）

○新たな評価の視点を追加

- ・評価軸に基づく採点結果に加え、原子力を取り巻く環境変化や社会的要請も考慮した上で、重要度を評価する仕組みに。

○重要度評価の判定基準を修正

- ・重要度（◎○△）の分布割合を概ね一定に保つ観点等から「評価軸の適用イメージ」を一部修正。

2. ローリングの実施方法の見直し

○「定期的なローリング」の頻度を見直し

- ・当初は1年に1度としていたローリングの頻度について、策定後初となるローリングを経たことも踏まえ、今後は、技術開発や人材育成の取組の進捗を適切に踏まえることができる頻度で実施していくかたちに修正。

○作業の柔軟性の確保

- ・予め記載された作業に限らず、ロードマップの改善に向けて必要な検討・見直しを行うことを明記。

（今年度の例）環境変化や社会的要請を考慮した評価方法を新たに検討

3. 重要度評価の見直し

○各課題の重要度評価を更新

- ・ロードマップ策定時からの環境変化や、技術開発及び人材育成の達成度評価等を踏まえるかたちで、各課題の重要度（◎○△）を改めて評価。

○課題調査票の一部見直し

- ・ロードマップ策定時からの環境変化等も踏まえ、ロードマップ上に位置付けられる各要素課題（課題調査票）を追加・修正。

4. 今後の課題の整理

○本ロードマップの取組に係る指摘事項を整理

- ・今後、ロードマップの活用及びローリングを進めていく上での課題を改めて整理。

5. その他

- ・必要な時点修正等を実施。